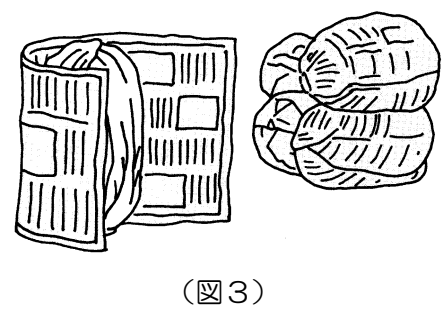
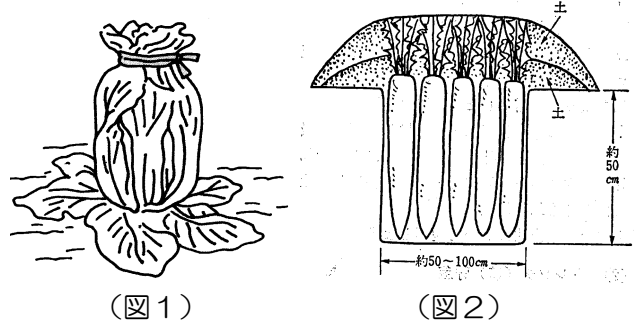


12月～1月上旬の農作業

種まき	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・二十日ダイコン <p>など</p>	<p>【秋冬野菜の貯蔵方法】 野菜の種類によって、貯蔵に適する温度や湿度が異なるため、その方法も異なってきます。今回は、一般的なハクサイ、ダイコン、ネギなどの貯蔵方法を紹介します。</p> <p>◆畑での貯蔵法</p> <p>①ハクサイ 霜の来る前に結球部を外葉で強くしばる（図1）。</p>
<p>収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハクサイ ・ネギ ・シュンギク ・ニンジン ・野沢菜 ・長芋 ・ゴボウ <p>など</p>	<p>②ダイコン、ニンジン、ネギ 凍結する前に抜き取り、葉を短く切って深い溝に縦に並べ、根元が露出しないように埋め戻しておきます。覆土は、20cm程度は行いましょう。ネギは、立てたまま軟白部分まで土をかぶせませす（図2）。</p> <p>◆屋内での貯蔵法</p> <p>①ハクサイ、キャベツ、ネギ ハクサイとキャベツは、外葉と根を除き、4～5日陰干しした後1株ずつ新聞紙で包み、温度の低い場所におくと2月頃まで貯蔵が出来ます。ネギは、掘り取って土のついたまま、一束ごとに新聞紙で包み暗室におきます（図3）。</p> <p>②ダイコン、ジャガイモ、ニンジン、タマネギ など 発砲スチロールの箱に入れ、フタをしておくと凍ることもなく鮮度も長持ちします。</p>



農作業Q&A ～収穫感謝祭(11/23)での質問より～

Q1. 大きなサトイモが割れてしまい出荷できなかった。原因は？

過乾燥状態のところに、急激な水分吸収が起こると「割れいも」が発生しやすくなります。今年の気象は、気温・降水量など変化が大きかったため、これによる生理障害であった可能性が考えられます。

Q2. カボチャを切ったら幼虫が飛び出してきた。良い防除方法はないか？

カボチャミバエの幼虫です。果皮が軟らかい幼果の時期（6月中下旬ころ）に、成虫が飛来して産卵管を直接挿入して内部に産卵するため、薬剤防除のみでは防ぎきれません。労力がかかりますが、落花直後に袋掛けするか、大きな葉を摘みとって幼果を包むようにすると、被害をかなり軽減させることができます。

害虫の防除方法いろいろ！

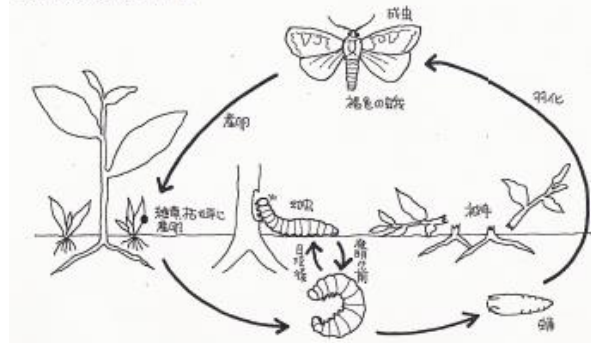
農作物の害虫防除は、いろいろな方法があります。薬剤防除は、^{ほしゅう}播種・定植前に土壌混和や植穴処理を行ったり、生育期間中、農作物に直接散布したり・・・と、対象害虫によって施し方が異なります。また、害虫の光反応を応用したマルチ資材や防虫ネットの利用などの耕種的防除もあります。ここでは、代表的な害虫の生態と防除方法について説明します。〔図：家庭菜園の病気と害虫 より〕

<ヨトウガ、コナガ、ネキリムシ類>

【生態】アブラナ科作物では一般的な害虫になります。ヨトウガ及びネキリムシ類は、昼間は土中に潜んでおり「夜盗虫」の名のとおり夜間に活動が活発になります。コナガは年間で5~6回程度発生する厄介な害虫です。ネキリムシ類は茎を食害するヤガの幼虫の総称で、定植後間もない時期に幼虫が幼苗を地際で食い切るため被害が問題となります。

【防除】ヨトウガやネキリムシ類は、生育期間中の茎葉散布剤（水和剤など）では防ぎきれないため、定植前に「粒剤」等を土壌処理します。薬剤の有効成分が苗の根から吸収され植物体内に移行するため植物を摂食した害虫に効果を現します（30日間程度有効）。また「粒剤」の種類によっては土中でガス化して、潜んでいる害虫に対して直接作用するタイプもあります。

ネキリムシ類の発生生態



<アブラムシ類>

【生態】一般に春先~初夏、盛夏の頃に発生が目立つようになり、中にはウイルスを媒介するものも存在します。定植後間もなく寄生されると、初期生育が確保できず枯死に至るケースがあります。

【防除】定植前に「粒剤」を土壌処理して予防を行います。生育期間中に発生が見られたら、繁殖力が旺盛なため、早期に「水和剤」などを茎葉散布します。また、銀色を嫌うので「シルバーストライプマルチ」を敷くと密度低減を図ることができます。

<オオタバコガ>

【生態】トマト、ピーマン、レタスなどの野菜のほか、キウ、トルコギキョウなど多くの作物を食害します。本県では5月下旬~10月下旬に年4回程度発生します。成虫が夜間に飛来して新葉や新芽付近に産卵し、孵化幼虫が移動して果実などにたどり着き、その後食入して内部を加害します。トマトでは一般に6月上旬及び8月中旬以降に被害が見られるようになります。

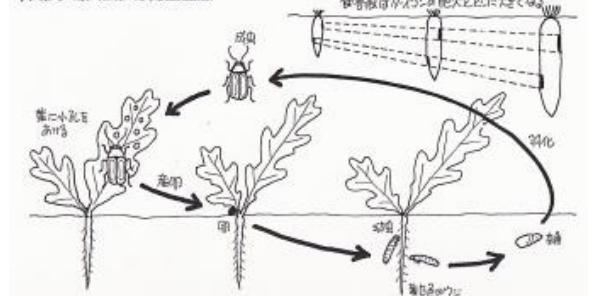
【防除】薬剤のみでは、孵化幼虫が果実などの内部に食入するまでの短い期間をねらって散布することが重要になるため、十分な効果が期待できません。施設栽培では防虫ネットによる開口部被覆が有効です。

<キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ>

【生態】非常に小さな甲虫で、前者は春先から、後者は秋ごろから発生が多くなります。アブラナ科作物を主に加害し、作物に無数の小さな穴をあけるため商品価値を低下させます。土中で越冬します。

【防除】茎葉処理剤もありますが、土壌処理剤による効果が高いため、例年、本虫による被害が目立つ場合は、定植前に「粒剤」を土壌処理します。

キスジノミハムシの発生生態



あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

技術事項作成協力

上田農業改良普及センター（木曾）

電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161